

大和田 順子・著

## アグリ・コミュニティビジネス

資源は豊かだが、産業がなく疲弊する農山村の人たち。地域の豊かさに生きがいを求める都市部の人たち。これらの人たちが交流を通じて農山村でビジネスを展開する。これが「アグリ・コミュニティビジネス」だ。

地域に人やお金を呼び込み、新たな雇用や産業などの創出していくという、何とも明るい目標ではないか。全国13カ所の事例を紹介する。

株式会社マイファーム（京都市）は、都市近郊の耕作放棄地を市民農園として再生する。すでに全国50カ所（合計50社）で取り組み、会員数は2500世帯に拡大した。高齢化などで耕作ができない農家の課題を解決し、都市部の人たちが農業を楽しむ。新たなビジネスとして注目される。この他、環境に配慮した



学芸出版社=1890円  
おおわだ・じゅんこ=1959年、東京都生まれ。  
『日本をロハスに変える30の方法』『ロハスビジネス』など。

## “新しい幸せ”掘り起こし

農業生産として宮城県大崎市の「ふゆみず田んぼ」鳴子の米プロジェクト」の取り組み、島根県大田市の服飾雑貨とインテリアの店「群言堂」などを紹介する。共通するのは、関係者の間に「地域が豊かになっていくという、実感や喜びを共有する『新しい幸せ感』がある」ことだと指摘する。金銭では計れない新たな価値観だろう。

農家にとっては、都市部の人たちが農村にアゲコがれ、レジャーのように農業を楽しむことに違和感を抱く人もいるだろう。だが、本書で紹介するような、都市住民が農山村の潜在力を引き出し、「助っ人」として活躍することは素晴らしいことではないか。

農山村は、これまで都市部の人たちにとっては移住などの対象にとどまっていた。だが、「助っ人」の登場で両者の間にはビジネス関係も生まれた。新潮流に期待したい。

書評

営農生活部 飯島 有三